

教育委員会会議次第

令和6年3月28日(木) 15:05
小倉北区役所6階 教育委員会会議室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

- ① 議案第37号「北九州市教育委員会事務局事務分掌規則等の一部改正について」
(総務課長)
- ② 議案第38号「北九州市教育委員会調査統計事務取扱規程等の一部改正について」
(総務課長)
- ③ 議案第39号「北九州市電気工作物保安規程の一部改正について」 (総務課長)
議案第40号「通学区域の変更について」 (学校規模適正化担当課長)

(2) 報告

- ① 報告第1号「人事について」 (教職員課長)
- ② 報告第2号「人事について」 (総務課長)

(3) 協議

- ① 協議 ①「学校規模適正化について」 (学校規模適正化担当課長)

(4) その他報告

- その他報告①「北九州市型外国語教育の推進について」 (学校教育課長)
- その他報告②「請願第15号『2024年度予算案における朝鮮学園助成金の削減について』」 (企画調整課長)
- その他報告③「陳情第185号『福岡朝鮮学園の予算削減案の撤回について』」 (企画調整課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- 1 開催年月日 令和6年3月28日(木)
- 2 開催時間 15:05～17:02
- 3 開催場所 小倉北区役所 6階 教育委員会会議室
- 4 出席者 (教育長) 田島 裕美
(教育委員) 大坪 靖直、竹本 真実、香月 きょう子、中島 良
- 5 事務局職員 教育次長 高橋 英樹
総務部長 小杉 繁樹
教職員部長 澤村 宏志
学校教育部長 高松 淳子
総務課長 久保 慶司
企画調整課長 栗原 健太郎
学校規模適正化担当課長 徳光 崇
教職員課長 藤井 創一
学校教育課長 松山 修司
- 6 書 記 総務課庶務係長 桑本 清
総 務 課 中島 遥香
- 7 会議の次第 別紙のとおり

教育委員会(定例会)会議録（令和6年3月28日）

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、竹本委員と中島委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・議案第37号「北九州市教育委員会事務局事務分掌規則等の一部改正について」
- ・議案第38号「北九州市教育委員会調査統計事務取扱規程等の一部改正について」
- ・議案第39号「北九州市電気工作物保安規程の一部改正について」
- ・報告第1号「人事について」
- ・報告第2号「人事について」
- ・協議①「学校規模適正化について」

3 案 件

(1) 公開案件

議案第40号「通学区域の変更について」

本議案の提案理由を学校規模適正化担当課長が説明。

[提案理由要旨]

尾倉中学校及び花尾中学校の通学区域の一部を変更する必要があるため、付議するもの。

大坪委員／宅地開発に伴う中学校区の変更ということで、この内容についてはよく理解できた。あわせて少し確認したいのだが、小学校区については、今回の中学校区の区割りをしたとして、ねじれというか、そういったことは起きないだろうと想像するが、そこを確認させてほしい。

学校規模適正化担当課長／小学校区は全て花尾小学校校区になっているため、今回中学校区を変えても、ねじれ等は生じない。

中島委員／資料の図でいうと、2番と3番はまだ開発中で人が住んでおらず、4番と5番は既に人が住んでいて、ここに尾倉中に通っている生徒がおり、その子どもたちが花尾中に変更になるという理解でよろしいか。また、それが3名いるということだろうか。

学校規模適正化担当課長／ややこしい説明で申し訳ない。今回は、4番、5番も含めて、地図で言うと緑の点線で囲んである開発区域は、まだ誰も住んでいない。住んでいない状況の中で、土地の所有者からそういった申し出があったため、誰かが住まう前に統一させていただこうということだ。

中島委員／理解した。もし住んでいる子どもがいたら、例えば合理的配慮とか、不足がないかという質問をしようと思ったが、住んでいないということであれば大丈夫だ。

香月委員／6番は尾倉中学校校区か。

学校規模適正化担当課長／そうだ。

香月委員／これは、だんだん開発されていくと、何か6番だけ花尾中学校校区にはみ出しているような形になるかなと思うが、ここは今のくらい尾倉中に通っているのか。

学校規模適正化担当課長／6番は全く宅地がなく、地図上で見ると駐車場のようになっているとおり、住んでいられる方がおらず、土地の所有者も今回の開発とはまた別のところになっているため、今回のこの見直しでは対象にしていない。

香月委員／将来的には考えるという整理でよろしいか。

田島教育長／私も香月委員の質問に同感だ。

学校規模適正化担当課長／将来的に、あるいは一斉にできたらという面はあるのだが、それぞれ、土地の所有者の状況やそこに住まわれる方が将来的に出てくる可能性なども考えられる。現在は誰も住んでいないので、自治会にもこの土地自体は入っていない状況にもある。その辺りが実際に開発され、整ってきて、また今回と同じようなお声が上がれば、またそこで検討させていただいて、教育委員会会議に諮らせていただくという形になるかと思う。

田島教育長／1番は何なのか。

学校規模適正化担当課長／1番も、人は住んでいない。申し訳ない、何の建物だったかは失念したが、住宅等ではなく、全く人が住んでいない土地だ。

原 案 可 決

その他報告①「北九州市型外国語教育の推進について」

学校教育課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

北九州市型外国語教育の検討状況について報告。

中島委員／各発達段階に応じたカリキュラムの作成であるとか、小中の連携という別の課題ともリンクさせた計画で、とても丁寧につくられていると思った。

1点質問だが、このカリキュラムをつくるにあたって、英語教育の専門家であるとか、何かそういう方から助言をいただいたりするような経緯はあったか。

指導企画課長／中心のアドバイザーとしては長崎大学の中村教授なのだが、外国語に特化した指導に長けている先生をお招きし、また、本市の中でも、外国語教育を推進している校長先生方に集ってもらい、ワーキンググループを立ち上げ、その中で進めている。

中島委員／それでは、このワーキンググループのお墨付きをもらった形ということか。そうであれば、このまま進めてもらってまったく問題はないと思うのだが、少しワークシートで意見を言わせてもらえたらと思う。

自分が英語を学習してきた過程で、小学校とか中学校の段階でレベル的にパターンを学んだということは、基礎力になったなという思いがある。一方で、やはり英語で流暢に話せたなと思う時というのは、思考が英語でできている、自分の思考言語が英語のモードに変わっている時だなと自分で振り返ることがあり、今回、この振り返りシートが全て日本語なので、英語の活動を日本語で振り返ること自体が、英語の活動としてしっかり成り立つのかなと少し不安に思った。

例えば、「すこしできた」「まあまあできた」を「Very good」、「good」とか、何かそのようなものでもいいので、自分の振り返り自体も、もう少し英語に親しんだ形

にされると良いのではないかと思っただが、専門家が良いと言っているのであれば、私からはそれ以上は言えないという思いもある。

もう1点、アウトプットに課題があるということだったが、1つは、こうして相手や対象を見つけてアウトプットするという機会を持たれているのはとても良いことかなと思っただが、やはり体験として、日本人相手に英語で説明をするというのは少し違和感があるので、ALTも含めてだが何か実践的に、「この人に英語で伝えなければならぬ」というようなシチュエーションをつくれるものだろうかと少し疑問に思っただ。そのような計画があるとか、このような機会を持っているとか、そういったことがもしあれば、教えていただけるとありがたい。

学校教育課長／委員のおっしゃるとおり、やはりその目的・場面・状況というのは設定しないと、子どもたちが表現する活動が高まらないと考えている。

そこで、先ほどハンドブックの中でお示しした32ページの、小中連携・接続などのための特別授業、こういったところで、ALTを多く配置するだとか、オンラインで繋ぐといった形で、英語で伝えるべき場面という状況を生み出していきたいと考えている。また、KGGで体験したことが、また学校の中で活かされればとも考えている。

中島委員／市長も推してあるということなので、今後このリーディング校で学んだ実践が全市に広がるといいなと思っただが伺っただ。今後よろしくお願ひする。

香月委員／ファンタイムとパフォーマンスタイムは、概念的にというか、イメージが湧かないので、もう少し具体的に教えていただきたい。それと申し訳ない、ALTは外国人の講師の方だったか。

学校教育課長／ファンタイムのイメージについて、14ページに指導案が載っているのだが、子どもたちは「How many?」という数の学習をしており、学んできたことを使って子どもたちが聞き合ひをし、数を答えていくというものになる。そういった時に、授業だけだと授業の中の限られた取組だけになるところを、子どもたち全体で、集会に近いイメージだろうか、例えば皆でおはじきをそれぞれ持ってペアになり、「いくつ持っている?」を英語で聞き合ひ、「いくつ持っているよ、同じ数字だね」といった具合でラッキーナンバーを決めていくとか、そういった楽しい活動が展開される中で、今まで学んできたことをアウトプットできるような場を考えている。それがファンタイムである。

パフォーマンスタイムは、これは基本的には1対1をイメージしている。ALTや担任の先生と英語で、1対1で会話をを行う。これについても、学んできた英語を実際に使ってみる場として、1対1での会話をを行うというふうと考えているものになる。

香月委員／ファンタイムはよく分かったが、パフォーマンスタイムは、個々のやり取りを、今まで学んできたことを使って何か対話をするような感じだろうか。

学校教育課長／今まで学んできたことを使って1対1で話をする。これも具体例として指導案があり、20ページを開いていただくと、「週末の過ごし方について伝え合おう」という場面がある。目標としてここに2つ挙げているが、自分の起きる時刻と寝る時刻を伝え合ひこと、また、週末の生活について伝え合ひことができるように、ふだんの生活について、ALTまたは担任と1対1でやり取りをするということ。

他の子どもたちはその間どうするのかと思われるかもしれないが、待っている間に先生とやり取りする練習を行ったり、また、例えば24ページに県名探しというのがあるが、こういったものを使いながら、パフォーマンスタイムの時間を待つというようなことも考えている。少しイメージは持っただがいただけたらだろうか。

香月委員／よく分かった。

中島委員／今の確認だが、スピーキングテストというか、何か自分でつくった課題に対する作文を、きちんと空で言い合えるかどうか、といったイメージと思って大丈夫か。

学校教育課長／つくった台本をもとに喋るのではなく、その場で聞かれたことに対して、即興的に子どもたちが答えていくという力を付けていきたいと考えている。

中島委員／それでは、従来のスピーキングテストとは少しニュアンスが違う、ということか。

学校教育課長／そうである。

学校教育部長／どちらも、学んだことをどんどん出してアウトプットしていく時間として、北九州市独自でカリキュラムを調整し、生み出している時間である。

3・4年生に関しては、ファンタイムという名称を「楽しもう、楽しむ時間だよ」と、「今まで学んだ英語をどんどん使っていこう」と。友達やALTとやり取りしたり、一緒に活動しながら、どんどん学んだことを表出させていく時間の名称として、「ファンタイム」と付けている。

5・6年生のパフォーマンスタイムに関しては、先ほどご説明したように、ALTと1対1で、学んだことをもとに自分の考えを英語でやり取りする時間を設定し、それをパフォーマンスタイムという名称で、カリキュラムの中に独自で位置付けた時間となる。

竹本委員／ファンタイムとかパフォーマンスタイムとか、こういった、アウトプットに重きを置いた独自のカリキュラム、プログラムというのは大変良いのではないかと思う。ぜひ進めていただきたいと思う。

1つ質問だが、これを進めるにあたって先生方は、新たなこういったプログラムをしっかりと認識して、研修をしてから当たられると思うのだが、5・6年生というと専科の先生がいらっしゃって、より実践的、本格的な英語の教育をされているという、本当にイメージで申し訳ないが、1・2年生とか低学年になると、やはり担任の先生が受け持つのかなとイメージしたのだが、まずこれは、そういう形になるのだろうか。

学校教育課長／そうである。基本的に、1・2年生については担任の先生が教えることになると考えている。

竹本委員／先生方は、いつもお話を聞いていて大変熱心な方ばかりなので、きっと研修などを経てすごくいい授業をしていただけるとは思うのだが、やはり子どもとは、英語などの言語は耳から覚えることが、特に小さければ小さいほど、やはり耳からの影響はすごく大きいと思う。そこで、日本語英語とは言わないが、より正確な、ネイティブとまでは言わないにしても、先生方の研修などをより重点的に、しっかりとしていただきたいなと思った。

そして、実践的に、日常に溶け込んだようなプログラムをこのように楽しみながら進めていくということは、とても良いのではないかと思うし、先ほどおっしゃられたKGGなど体験施設も近くにあるので、あれはもっと活用を増やしていただけないかなとも思った。

学校教育課長／まずさっきの低学年の指導だが、これについてはハンドブックと別にDVDをつくっており、担任の先生が困らないような形で考えている。動画を見せればそこから英語が出てくるとか、音楽を聞かせるとか、絵本の読み聞かせをするとか、そういった形のものを考えており、これについては研修を積みながら、先生方に負担がないような形でスタートできるようにしてまいりたい。

KGGは、次年度の予算は基本的にない。各学校の判断で行くことはあると考えられるが、全市で行くのは、令和5年度で終了になる。

田島教育長／KGGは2年間の間、子どもたちの体験が英語教育のきっかけに非常に良いということで、その良さを取り入れて、こういうカリキュラムにシフトしてきて、グローバル教育のほうに持っていったという流れになっている。

大坪委員／とても丁寧に組み立てて進めようとされているのがよく分かりました。ぜひ成果を期待したいと思う。

しかし、おそらくこの領域は、AIの進歩とスマートスピーカーがものすごく大きな影響を及ぼして、そのうちスマートスピーカーに、それこそ英語で聞いて英語で答えさせるとか、あるいは「英語でこれを説明して」というように課題だけ渡すと、子どもたちは一生懸命調べて、スマートスピーカーに説明して、スマートスピーカーが分からないところは「これはこうですか」みたいな形で返ってくるみたいに、おそらくすごいスピードで学習活動の内容が変わっていく領域なので、他県などの先進的な取組にアンテナを高くされていると、おそらく、できるだけ早く本市の子どもたちにそういう状況が提供できるようになっていくのかなという気がする。

私はiPhoneを持っているが、Siriに「英語で質問できますか」と聞いたら「普通に話しかければいい」というふう返ってきたので、だからもうAlexaでもSiriでも、いわゆる安価なスマートスピーカーでも、おそらくきっと英語で会話ができる。これはやはりキーボードではないほうがいいと思う。

小学校低学年であればあるほど、スマートスピーカーに話しかける、答えてもらう、こういうことを日常的に、休み時間とか放課後とか、あるいは授業の中でも、課題を出しても大丈夫だと思うが、そうして、知識というのは必要な時に外から持ってくればいい。何をどういう順番で調べていって、どこかおかしいところがないかを友達同士でチェックし合っていくという、協働の学びみたいなものが、おそらくものすごく早く実現される1つの領域だなと、今日の説明を聞きながら感じたので、ぜひ今後とも頑張ってもらいたい。

田島教育長／そういう意味で言うと、今回6年度はモデル事業で開始するので、その中で、そういった先進的なものも含めて、また一歩先に進んだ英語教育を模索したいと思う。

報 告 終 了

その他報告②、その他報告③について一括審議

その他報告②「請願第15号『2024年度予算案における朝鮮学園助成金の削減について』」

その他報告③「陳情第185号『福岡朝鮮学園の予算削減案の撤回について』」

企画調整課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

請願、陳情の内容について説明し、その趣旨に対する方針を報告。

香月委員／陳情については、この「不採択」というのは、申し訳ないがどう解釈したらいいかわからない。

田島教育長／どうしてか、という意味か。

香月委員／この請願第15号に対して「不採択」ということか。

企画調整課長／その他報告②のほうの請願については、議会で、今後も継続審査を行っていくという結論が出されている。

陳情のほうについては、不採択ということで議会側が判断しているため、却下というか、その陳情についてはもう受け付けないというか、そういった結論を議会側が出されたということになる。

香月委員／すると、予算は削減したままということになる。

田島教育長／おっしゃるとおりだ。

香月委員／理解した。

報 告 終 了

(関係者以外退出)

(2) 非公開案件

協議①「学校規模適正化について」

本議案の提案理由を学校規模適正化担当課長が説明。

[提案理由要旨]

学校規模適正化の進め方(改訂版)の素案等について、協議するもの。

協 議 終 了

(関係者以外退出)

報告第1号「人事について」

教職員課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

北九州市公立学校長(相当職)の人事異動及び、北九州市公立学校管理職等候補者選考試験等の結果について、「北九州市教育委員会の権限事務の一部を教育長に委任し臨時に代理させる規則」に基づき報告するもの。

報 告 終 了

議案第37号、議案第38号、議案第39号について一括審議

議案第37号「北九州市教育委員会事務局事務分掌規則等の一部改正について」

議案第38号「北九州市教育委員会調査統計事務取扱規程等の一部改正について」

議案第39号「北九州市電気工作物保安規程の一部改正について」

本議案の提案理由を総務課長が説明。

[提案理由要旨]

令和6年4月1日付の組織改正に伴い、関係規定を改める必要があるため、付議するもの。

原 案 可 決

報告第2号「人事について」

教職員課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

令和6年4月1日付の人事異動案について、「北九州市教育委員会の権限事務の一部を教育長に委任し臨時に代理させる規則」に基づき、臨時に代理し内示を行ったため、報告するもの。

報 告 終 了

4 閉 会

17:02 田島教育長が閉会を宣言